

令和2年度 第4回古賀市図書館協議会会議録(書面会議)

会議名称：令和2年度第4回古賀市図書館協議会（書面会議）

意見提出期限：令和3年3月10日

主な議題：①令和2年度前期(4月～2月)図書館事業報告

②平成28年度～令和2年度 図書館の利用状況(4月～1月)比較

③令和3年度図書館の運営方針と活動目標

④その他の報告事項

出席者：光延 正次郎委員 村山 美和子委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員
久池井 良人委員 八坂 由美子委員 井上 文子委員 長澤 正之委員
以上8名

欠席者：0名

配布資料：①資料1 令和2年度前期(4月～2月)図書館事業報告

②資料2 平成28年度～令和2年度 図書館の利用状況(4月～1月)比較

③資料3 令和3年度図書館の運営方針と活動目標

④資料4 その他の報告事項

⑤意見記入用紙

⑥チラシ 古賀市電子図書館サービスが始まります！

⑦古賀市電子図書館利用案内

⑧古賀市立図書館利用案内

協議事項

1 令和2年度前期(4月～2月)図書館事業報告等について

・コロナの余波で、年間の予定が中止になりましたが、予防措置をされながら再開され、これからは平常へ戻ることが一番だと思います。

・コロナ禍で事業の中止が多かったのは残念ですが、仕方なかったと思います。その中で、「えいごでおはなし会」や「暮らしの講座」などが行われましたが、感染対策が適切に行われ、内容的にも充実したものでした。参加できなかった市民の方々にも実施内容を紹介されてはいかがでしょうか。

・一部の事業は、場合によってはオンラインでの開催もできるのではないのでしょうか。今後のこともあり、また可能性を広げるためにも検討されてはどうかと思います。

・図書館まつりは、今年度から9月になっていますが、全国の読書習慣が実施される10月の方が盛り上がるように思います。9月は、時期的にも夏休み明けでやや早い気がします。

・コロナ禍という困難な状況の中で、よく頑張っておられます。

・コロナ禍から、多くの事業が中止になりましたが、「図書館まつり」「ミニおはなし会」「講座」などが開催できて良かったと思います。全体的に参加者減がありますがやむを得ないと思います。その中でも、各小学校新一年生への読書ノートの配布とおはなし会の実施は、子ども達の意識を高める上で、今後とも進めてほしいと思います。

・コロナ感染対策の為、事業の多くが中止や縮小になったことは残念だったが、やむを得ないことだと思います。各小学校、支援学校の新入生に読書ノートを配付できたことは良かったと思います。今後もぜひ続けてほしいと思います。

・暮らしの講座・終活入門は、いろいろ社会の不安定な状況が続く今日、とても有意義なプログラムであったと思います。講師の中山氏の話はとても明快で、用意されていた「終活入門」の小冊子はわかりやすく、基本的な重要事項をよく説明しています。実際には、終活が多様な形態に及ぶので、フロアからの質問の時間をもっととれたら良かったのではないのでしょうか。今後は、全体の講義 100 分（講師の説明が 65 分、質疑が 35 分）の案も検討してはどうでしょうか。

- ・11月頃から図書館の行事が実施されるようになり良かったと思います。
- ・おはなし会を歴史資料館中会議室で行われたこと、参加人数が増えてよかったです。
- ・私達も、図書館の行事のポスターは文庫にも掲示したいと考えています。

2 平成 28 年度～令和 2 年度 図書館の利用状況(4 月～1 月)比較について

・入館、利用者等コロナの影響で大幅に減り、また外出自粛もあり、まだその影響もあるかと思っています。患者も減ってきたので、それに新学期に向けて行動も変化し、増えることを祈っています。

・利用状況が減少傾向にある昨今ですが、今年度はさらに大幅減となっています。しかし今後、コロナの影響が改善されれば、回復の目途が立つのではないかと思います。今回、貸出可能冊数を増やしたことや電子図書館の開設など、積極的に取り組まれたことが功を奏することを期待します。

・そのためにも、市民の方々への周知徹底と利用促進がより必要になると思います。図書館の活用に関する講座や研修会などを開催されるなどの取組はいかがでしょうか。

・これも、現在の状況において努力されていると思います。

・貸出冊数から新規登録の数に至るまで、全ての月で、昨年度より減少しました。しかしながら、夏期以降はそれなりの貸出し、来館があったことは、図書館も来館者も十分な感染対策に努力されたことと推察します。

4月1日から5月18日が臨時休館であっても、貸出人数が123人となっていたことに疑問を感じましたが・・・。

・利用者数、貸出冊数ともに減少しているのは、コロナ感染予防対策が大きな要因であると思われるが、近年の利用者の減少はやはり図書館離れ、本離れの影響が考えられると思います。

古賀市に移住・転入してくる若い世代の方にも、より図書館の利用を広げるための広報活動等が望まれると思います。

・コロナ対策で、外出や諸活動がしにくい中、図書館の利用状況はますます堅調といっても良いのではないのでしょうか。ちなみに、図書館協議会委員である私の場合でも、図書館に出向くことに心理的圧迫

を感じやすくなっています。

・貸出冊数や貸出人数は一番少ないが、コロナの自粛でもっと減少しているかと考えていたが、結構来館しておられるなど思いました。本を楽しんでおられる住民の方はたくさんおられることがわかりました。

3 令和3年度図書館の運営方針と活動目標について

・資料のとおりで良いと思います。活動目標について、シルバー世代の人口増加で、活字世代の方が多いため、足を向けて頂くように、掘り起こしをしてはと思います。

・基本的には令和2年度の内容とほぼ同じですが、令和3年度の活動目標に電子図書館サービスの実施を挙げられていることは、その推進に期待が持たれます。ぜひこのサービスが市民の方々に利用され、予算に見合う成果が上げられることを願っています。

・令和2年度に掲げられていた「学校図書館市民開放用一般書の配本による学校開放支援」が、令和3年度の活動目標に入っていないが、これは事業が終了したものでしょうか。それとも、重点目標から外れたものでしょうか。いずれにしても、学校図書館の支援は、公共図書館の使命のひとつであると思います。

・相対的に、よくまとまっていると思います。ただ、「郷土、行政資料の収集、保存、利用者への情報提供の実施」について、特に留意していただきたい点があります。

郷土の歴史を調べていて、志賀島、香椎宮の歴史と宗像の歴史が豊富であるのに、なぜか古賀地域の古代史が空白であるのが以前から疑問でした。この空白を埋める資料の充実をお願いいたします。

・令和3年度の活動目標に「電子図書館」と「第4次子ども読書活動推進計画」策定が入っており、図書館を取り巻く新たな時代に入った（入る）と実感しました。

・大まかな方針、活動目標について知ることはできたが、具体的な点については次回知ることができると思います。例えば、利用者数向上の実際の数値目標案（?）、地域情報拠点としての発信方法（?）、子どもの読書活動の推進のための活動内容（?）等。

・これで良いと思います。

・米多比の歴史を学ぶ会の講師の先生が、市立図書館の郷土資料を活用すると良いことや、レファレンスサービスが良いことも話しておられました。話を何回聞いても忘れませんが、自分でテーマを決めて調べるなどすれば学びが深く定着するものだと思います。レファレンスの活用と、様々な生涯学習がつなげて活用が進めばよいと思います。

4 その他の報告事項

(1) 図書館サービスの変更について

- ・貸出方法のレシート変更は、私も図書館に行き、よくわからないまま貸出機でエラーになり、初めて知りました。「広報こが」や図書館にわかりやすく表示をしてほしいと思います。

- ・いずれの内容も、利用者にとって利便性が高く、サービスの向上が大いに図られたものと思います。ただ、貸出冊数上限の20冊は、実際には2週間で読み切れるものではなく、実際の有効性はどうか。一部の利用者の大量貸出しがやや危惧されます。新年度の利用状況を検証する必要があると思います。

- ・貸出し内容のレシート印字は、すでに周辺の図書館では実施されていることであり、古賀市が取り入れられたことは大変良かったと思います。

- ・ありがとうございます。

- ・貸出点数、期間、レシート化、カードの更新など各種サービスの充実が図られました。「全ては利用者のために」が図書館の基本理念であることを改めて確認しました。

- ・サービス変更については良かったと思います。特に、雑誌が15日間になって喜んでいる友人が多かったです。

- ・貸出点数が増えて、大そう嬉しく思います。視聴覚資料の貸出期間が2倍近くに長くなったのも助かります。おかげで、急がずゆっくり鑑賞することができます。

- ・CD3点2週間はうれしいです。貸出し内容は、私個人としては利用者カードへの印字の方がなくしたりしないので良いと思いますが、図書20点となると、全部印字できないかなと思います。

(2) 郷土行政資料コーナーの移動・拡充について

- ・交流館のロビーでの中村哲さんの資料展示は大勢の人々がしっかり見学されていて好評でした。船原古墳は市民の関心の的でマスコミも興味のあることなので、市外からの見学もあったということです。展示物はPRもかねて図書館との表示も大切かと思います。

- ・市民の関心が高い「中村哲氏」や「船原古墳」関係の郷土資料を常設展示することは大変良い取組です。貴重な郷土資料は蔵書するだけでなく、市民の方々に知っていただき、理解を深めることが大切です。今回の積極的な移動・拡充は必要な措置と思います。

- ・適切な判断と思います。

- ・「中村哲氏」「船原古墳」関連コーナーの拡充に頭が下がります。コロナ感染対策にはどこも悩ましいところですが、館長さんはじめ職員挙げて知恵を出し合っておられる姿が伝わってきます。

- ・このコーナーの拡充はとても良いと思いました。AV 視聴ブースは個人的には必要ないと感じています。
- ・「中村哲氏」の比類なき社会貢献や、歴史的価値の高い「船原古墳」の常設展示の拡充はとても有意義なことだと考えます。古賀市外からの見学者にも答えるべく、今後もより良い展示の努力を続けてほしいと思います。
- ・地域の特色が出て良いと思います。

(3) 電子図書館サービスについて

- ・新しい取組である電子図書館サービスは、新しい本との出会いに導くすばらしい取組だと思います。楽しみにしています。
- ・市外の町等でもサービスが始まり、徐々に充実されることを願っています。
- ・電子図書館サービスを利用すれば、図書館に行くことができなくても、電子書籍を利用できます。コロナ禍の状況でも、遠隔地や病気など体の具合が良くない方でも利用できることは利便性が大いに向上します。予算を確保され導入されたことに敬意を表します。
- ・ただ、電子図書館を使いこなすには、電子機器を活用できるスキルと環境が必要ですので、わかりやすい説明や体験講座などの取組もあわせて必要かと思います。電子図書館のより一層の周知徹底とともにお願いします。
- ・いいですね！私も利用させていただきます。
- ・私は、電子図書館の実情や操作方法に疎いのですが、この度の開始に、皆様の努力に敬服しました。コロナ禍を機会に、一層「いつでも、どこでも利用」できる電子図書館の期待と利用が広がるものと思います。一方で、紙媒体の良さ、温もりも改めて大事にしたいと思いました。
- ・3月9日からの内容なので、今後については良くわからないが、個人的には歓迎しており、楽しみにしています。電子図書館は学生さんや社会人の方々には便利なツールとなると思うので、市としてもアピールしていただけたらと思います。
- ・これからは、長崎図書館長も指摘されているように、電子図書館サービスの重要性は確実に増してゆくと考えられます。急がなくても良いから、少しずつ着実にこのサービスを発展させていってほしいと思います。
- ・興味深いです。これからの時代、そういうサービスも受けられるように学びたいと思います。しかし、苦手な人もいますので、図書館で教えていただきたい。「活用方法の研修会」があれば参加したいです。(NHK教育テレビでスマホの使い方の番組があり、そういう How To の研修も必要だと思います。

5 その他

・年間1回程度は、古賀市立図書館の実際の様子を見学し、新しい取組や行事について説明していただく機会を得られればよりよい意見を言えるのではないかと思います。

・私は自分がシルバー世代なので、まだまだ活字に親しむ世代です。市民講座等でも読書を親しむ講座等を行ってはと常々思っています。残念ながらコロナの影響で実現に至りませんでした。図書館へ入ってすぐの展示の本、もう少し魅力的にしてみたいと思います。

・これまでは市民の方々にいかに図書館に足を運んでもらい、利用してもらおうかということに力点を置きましたが、コロナ禍において改めて図書館の基本的な使命や内容の充実ということが大切になってきたと思います。

たとえ図書館に来られなくても、いつ、どこからでも市民の方々が図書館を活用できる体制を充実することが今後ますます必要になってくると思います。その意味で、今回の図書館サービスの向上の取組に大いに期待しています。

・特にありません。

・コロナ禍を経験した今の時代に、利用者も図書館職員もこれまでの図書館の在り方に変化が生じ、合理的な利用、スリムなシステムの移行に向かっていきます。デジタル化の進化は当然大事なことです。一方で、図書館の存在は「人と人」「心と心」を結ぶものであることを忘れてはならない重要な「懸け橋」であり「文化」であります。紙媒体が減少、抹消されていく昨今に、寂しさと憂いを感じています。

・コロナ感染のなか、運営等ご苦労も多いと思いますが、頑張ってください。

また、利用者増加に向けて、

○SNSの利用（古賀市のTwitter等）で情報発信

○図書館利用啓発ポスターコンテストの開催

○映画の原作本紹介特集や、シリーズ小説の主人公紹介特集などの特集企画とか、どうでしょうか？

・「古賀市立図書館利用案内」のパンフレットは手に持ちやすく、内容も良くわかり、見た目にも読みやすいです。表紙もすっきり可愛く、とても良いと思います。

・文庫でもそうですが、本離れで利用者が減っていますが、コロナウイルスにも負けない読書家がいることもわかりました。そういう人が一人でも増えるよう頑張りたいと思います。